

昭和四十三年六月招集

第二回市議定会定例会會議錄(第三号)



館山市議会第二回定例会会議録(第二号)

昭和四十三年六月招集

一 六月十九日(水曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 陳情書

第二 議案第五十四号 千葉県競輪組合の設置に関する協議に

ついて

第三 議案第五十五号 館山市印鑑条例の一部を改正する条例の制

定について

第四 議案第五十六号 館山市公立学校、学校医、学校歯科医及び学

校薬剤師の公務災害補償に関する条例

の一部を改正する条例の制定について

第五 議案第五十七号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する

条例の制定について

第六議案第百八号

昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第一号)

第七議案第百十九号

昭和四十三年度館山市館山テスホステル特別会計補

正予算(第一号)

午前十時十二分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日、出席議員数 二十七名

二小より 第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日、議事口お手もとに配付の日程表により行ないます。

日程第一陳情書を議題といたします。

(書記朗読)

館山湾、八幡湊、三軒町、新鶴ヶ谷、渚海岸、砂浜保存

造成陳情の件

議長(吉田勇治郎君) 本陳情書に対し、御質疑ございませんか。



——なしと認めます。　おはかりいたします。

本陳情書を採択と決し、関係当局に送付いたします。ことに御異議ございませんか。

（「異議なしと呼ぶ者あり」）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本陳情書は採択と決しました。

この際申し上げます。

議案第五十四号乃至議案第五十九号の各議案の説明は先月の全議、おりに終っておりますので、本日はただちに質疑に入ります。

日程第二、議案第五十四号を議題といたします。

御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。おはかりいたします。  
本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よう、本案は原案  
通り可決されました。日程第三議案第五十五号を議題と  
いたします。

御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。 ようて本案は原案通り可決さいます。

日程第四、議案第五十六号を議題といたします。

御質疑 ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。 ようて本案は原

案通り可決さいます。

日程第五 議案第五十七号を議題といたします。

一九番(島野茂樹郎君) 一だけ伺っておきます。

税率が百分の百二十一 或いは百分の四十四。

それから均等割が千六百八十円、世帯平均割が二千三百二十二円、こういうふう改正をするということでありますけれども、この数字が出てきた算式といいますが、算出の根拠、これを説明かせ願いたいと思います。

保健衛生課長(岡島憲治君) このように改正はいたしまして、けれども算出の方法は旧来の条例とおり、算式方法でございます。

まず、所得割の関係につきましては、保険税賦課総額の百分の二十二に相当する額を市民税の所得割の総額で除いて得た数ということに相当するわけでございまして、

この市民税の所得割税額が本年の結果は二千五十

一万三千円に相なったわけでございます。

課税総額の百分の二十の額が二千四百六十九万一千円になります。市民税の所得割額・被保険者のうち市民税の所得割額を納める総額が二千五十一万三千円に相なります。

二千四百六十九万一千円割る二千五十一万三千円ということに相なるわけでございます。

そうしますと百分の百二十一・二ということになるわけでござい  
ます。

資産割額でございますが、資産割の国民保険税の総額に  
対する割合は百分の二十でございますので、二千二百四十四  
万六千円に相なるわけでございます。

被保険者の納めます土地家屋に関する固定資産税  
が五千百三十万三千円になります。それを割りますと百

分の四十四という数字になるでございす。

均等割総額が課税総額の百分の四十四でございすので  
四千六百一萬五千円でございす。これを被保険者数で割  
りまいたが、千六百八十円という事になります。

それから平等割総額が保険税総額の中で百分の十七という  
ことになっておりますので、それを世帯数で割りまいたものが、  
二千三百二十二円、三という数字に相なっております。

二九番(島野茂樹郎君)わがりました。そうしますと改正前の税  
率の算定の方法乃至は課税額の算定方法を用いて  
そうして今年度の固定資産税或いは市民税の所得割  
額ですか。そういうものとそれから今年の国保税の關係  
で算出する方法は全部前の条例をそのまま適用して  
そうして出た。そういうふうに理解してよろしいわけで  
すね。そうすると来年からはどういうことになるか。

保健衛生課長(綱島憲治君)現在の医療費が堪能でござい  
ますと毎年この率はかわることになろうかと思ひます。

二九番(鈴木市蔵君)ちっと主管課長にお伺ひしますが私頭  
が悪くなつてどうもいけないんですが、この糸例を見ますると  
被保険者一人について千六百八十円が四十二年度るときは幾  
らでその差額は幾らということを被保険者割と世帯割  
について説明していただきたいと思ひます。

保健衛生課長(綱島憲治君)去年の一人当りは千三百五月で  
ございます。本年度千六百八十円でございますから、三百  
七十五円高くなつております。

一世帯当り本年度二千三百二十二円、去年千八百七十  
六円、四百四十六円高くなつております。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。——なしと認め  
ます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なしと呼ぶ者あり」)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第六議案第五十八号を議題といたします。

一五番(石井正君)二三伺います。九ページのスポーツ少年団の補助金四十万、これは創設当初であるから出すのか、或いは毎年このように出していくのか、その点お尋ねいたします。次にし尿処理関係でこの薬代ですが、はじめての試みで、ちゃんと説明だけではわかりかねるんですが、とにかく処理場は水がなくて困っておる現在、この薬が水がかわりをしている程度、緩和さいるのか、なお水の問題についてはどうような



交渉を——という経過になつておるか。こゝを聞きたい。

次に一ページ小学校費の中、那古小学校の照明四十万  
まことに結構なことだ。こゝは那古ばかりでなく、市内の小学  
校はほとんど照明が基準ルクスに達しておらないと思  
うわけでございますが、那古小学校を今回全般的に取り  
上げたいということで非常にいいわけですが、こゝは年次計  
画で計画的に次の小学校の照明工事をやる御計画  
が、おありかどうか。その点を伺いたい。以上。

福祉事務所長（池田亮山君）お答え申し上げます。スポーツ  
少年団本部が設立された最初の年であるから、補助金  
を出すのかという御質問のようでございますが、こゝは  
創立の当初だからということではございません。スポーツ少  
年団本部の運営費として補助を出したいということでは  
ございません。なおスポーツ少年団本部はこゝの補助金を

含めまして総額四十五万円の予算を立てましてこゝでスポーツ少年団本部を運営するということでございます。  
衛生施設課長(大嶋重義君)―尿関係の御質問に対して――  
まーてお答え申し上げます。

第一点のこゝ薬剤を使用いたしまして、それによって水の不足等の関係が解消するかどうかという点でございますが、この薬剤は大体消化槽におきまする分解分離といひますか、消化能力を促進させるという役目を持っておるわけでございます。

そういったことで水の関係につきまゝては実際に水が不足しておるわけでございますが、水の不足を補うという効果は持っております。――カー、従来使っていないよりも水質質等々関係につきまゝては効果があるということが実証されておるわけでございます。

それから第二点でございますが、水と関係でございしますが、あそこ、処理場は大体四五キロリットルの処理能力でございします。こゝが厚生省の管理基準では希薄度は、こゝが二〇を基準といたしておるわけでございます。それによつて放れさるるBODという名称でいっております。いわゆる生物学的酸素要求量ということになりますが、こゝが三〇ppm以下になつていなければならぬという基準があるわけでございします。

現在水の方は二本の井戸によりまして約五〇〇トンの水を取水しているわけでございまして、従いまして五〇キロ現在、投入がある場合には希薄度は十倍か少ないということでございます。開設以来現在におきましても、この水と件につきましては二〇の希薄度には達していないという現状でございします。

この水の問題につきまゝ、実は処理場の前に洲や宮川の  
上流の小さな河川があるわけでございます。これにつきまゝ  
では前から地元の方々には是非その水をいただきたいと  
いうことで申し出てきておりますが、最近になりまして  
この水も必要度も痛切に感じます。さらに私も地元  
民に直接会いましてお願いにいたっておりまして、さらに  
現場も見ただけでございしますが、あそこは大体見た  
ところではせいせい五、六トン位が可能ではないかと思つた  
わけでございます。一か所、これも川の下や洲の宮部  
落の水田、さらに藤原においても使うという、実は  
情でございまして、農業用かんがいを使うために現在  
の時点では直接あの川の水をもらうということについては  
無理のようには感じられます。なお、その川下に最後に  
一箇所、た水が平砂浦に注いでおるわけでございしますが、

その水を取ったらいけないかという様な地元の方々や意見もございまして、それも見たわけでもございますけれどもやはりせいぜい五、六トン位じゃないかという見当でもございます。こういったことでもございまして、まだ財・宮部落とは現在このことにつきましても折衝中でございますので、どうなるかはつきりわかりませんが、現在よりころではたとえあの水をもらつても常時希薄度二十倍といひますけれども、少なくとも千二、三百トンから二千七、八倍、千五、六トン程度ほい、わけでもございますので、たとえあの水をもらつても必要とする水量は無理ではなからうかという現況でございます。以上でもございます。

市長(本間譲君) この水の問題につきましてもちっと申し上げたいと思います。

あの水は、一尿処理場を作るときにはあの水を使わない。

汚水を流さない。こういう誓約書が当時入ってあげが  
 できたわけでございまして。この点につきましてはみなさま  
 方もいろいろ前からやっただけですけれども、なかなか  
 宮の方々は耕地の關係もあります。まず最初  
 いろいろいきさつがあるわけでございまして。そういう關係  
 で感情も高ぶってなかなかうまくいかなかったわけでござい  
 ますけれども、私はもうクー話合いで見ることに  
 必要ではないかと思ひまして、実は市會議員、田中さん  
 或いは飯田さん、議員、嶋田さん等々の方々にいろい  
 ろ御配慮いただきまして、こちらの方々が非常に積極  
 的に地元の方とお話合ひをくださいます。最近におき  
 ましては非常に、もう話がぼくいて参りまして話合  
 いを催める。こういう気分になつてきたわけでございま  
 す。これは全く今の三人の方々のお骨折でございまして

お礼を申し述べたいと思いますが、私は洲の宮地区に対して  
まゝでは青年館を作るときもいろいろいきさつがあり  
まゝたけぬども、カーやるものはやめていくことがいいんでは  
ないか。またいろいろ意見がありまゝで協力がなかったら  
あとまわしにいたうどうかという御意見もありまゝたけぬ  
ども、市としてはそういう態度ではうまくない。やる（きこと  
は）やめてというところで立派なものができまゝた。

それから、房南中学校の問題、神戸小学校の問題、い  
ろいろ神戸地区に対してはほかう地区との均衡もございま  
すけれども、そういう必要な事件があった関係もあり  
ますけれども、やめておるわけでございます。

そういうこともだんだんに浸透したと思ひますが、とにかく  
く話合はさうとうこと、この間私参りませんで  
、たけぬども、伊藤課長と大嶋課長がいまゝ

いろいろ話し合ってきたんですが、お骨折によりまして  
 だいぶ気持がほぐれてある程度、話し合いができる  
 態勢になっております。私も早速、こうと思っております  
 ましたけれども、今水がだいぶ必要な時期で、もう少し  
 たってからの方がいいではないかということと、近いうちにいて  
 いろいろ話し合いをして、向こうのかんがいと支障のない水を  
 いただきたい。こういうふうに考えております。これからよく  
 相談して、クーでも水をいただいて、そうして、水を緩和  
 しようというふうに考えております。何にしましても、尿  
 処理場は相当の金がかかっています。二千万位かか  
 っているわけです。そういつては申しわけないけれども、現在  
 館山市のガンというと、語弊がありますが、すけれども、そうい  
 うようなことも言い得るようなことで、まことに遺憾ござ  
 います。あれだけの大金をかけて作ったわけでございます。



から、私どもの方としては十分機能を発揮するように検討して参りたいと思うわけでございますが、現在、水、交渉の過程を申し上げまして、参考に供したいと思ひます。

。教育委員会庶務課長（干場伊右門君）小学校の照明度の関係でございますが、今回その内容調査をいたしましたところが、那古小・豊房小・館野小・富崎・東、こゝについて行なつたのでございますが、その中で特に那古小学校については十一教室について一つは電灯がついてなくてコンセントが一つという状態で今回こゝを取り上げたのでございます。その他、調査の学校も南向きの方は、ルックス以上とところがあります。廊下側、北側の方についてルックスが足りないところがあります。で、そういう点も今後技術者によくもう一回見てもらひまして、そうして今言ひましたところの残りの学校を年次計画をもつてゐる。

きたいと考えております。

一五番(石井正君)再質問いたします。

教育関係のたゞいま問題ですが、那左小学校につきま  
ては照明の取り付け方といひますか、どういふ方法で考  
えておるか、先般委員会におきまゝてお話し合ひまゝに  
照明をいかにしたら明かるくできるかという問題につきま  
して技術的に研究をしようということでご話し合つたわけ  
ですが、その点につきまゝでも御研究があつたかどうか、そ  
の点をお伺ひたいわけですが。

それから水の関係ですが、これから夏季に入りまゝで非  
常に投入も多くなる。困つてくると思ふわけなんです。が  
今、市長さんからうへお答えて水の問題が簡単に解  
決しないということではわかつたわけですが、御努力を  
いただいておりますが、大嶋課長の答弁でちやつと

考えたところは水が現在足りない。リの水がもらえても足りないというお話ですが、それでは今後水の問題について課長はいかなる考えを持っておられるか。その点をつつ伺いたい。教育委員会庶務課長(干場伊右衛門君) 那古小学校の關係一応塗ってあるところと塗らないところの差がどのだけあるかという關係。これは豊房小学校でそういう塗ってあるところと塗らないところがある。それを東電で見てもうたんですが、大体塗ってあるところと塗らないところは大体二〇%の差があるということでございます。一応那古小学校については南側の方は大体ですから北側の方に四灯、電燈光燈を入れてその照明をある程度平均化するということを考えております。

那古小学校は四灯づつ入れても今度入ると金体の配線をやけり考えなければいけない。電流關係で考えなければ

ばならないので、その関係のもうがかかるので四十五万と  
いうことでございます。

・衛生施設課長（大嶋重義君）ただいまの御質問にお答え  
申し上げます。

今後の水対策の件でございますが先ほども私申し上げま  
したんですが、一尿処理場の場合は十分の水量を取  
るということはかんがいということで、かち合いまゝて常時取  
水することは無理のようでございますが、洲の宮リッリ  
下に洲の宮リッリからばいてさうにリにならず平砂浦に  
注ぐわけでございますが、それが下の方になりますとさつき  
私が申し上げたより水量がある模様でございます。

こいを見たわけでございますけれども、そのときは雨のない  
ときでございまして、憶測でやゝ五〇〇或いはそれ以上では  
ないかということを見たわけでございますけれども、それを

並に上の方に引張ってきまして使えば、どうにか基準の水量には達するので、なかりうかと思われるわけでございます。で、当座、この水を補給するというのが面につきましては、そういう面で前にも交渉を持っております。洲の宮の部落の方々と折衝しまして、まず第一段階といたしましては、その洲の宮りの下水水でも取ってこれに充てていきたい。こう思っているわけでございます。

さっき私が申し上げましたように一〇〇〇トン以上の水が、いるということに對しまして、不足かのように思われますけれども、大体千二三百トン程度は取水できるのではなからうかと思っているわけでございます。

二五番(石井正君) 小学校費の方の照明の研究をしたかどうかという点、答弁漏れだと思ひます。その点、

それから、尿処理關係につきましては、市長が言われま

「たように、ガンという言葉がありましたが、私は今まで議会やたばに、尿関係で金がいぶち出てるので追及して参ったんですが、これはグーづつかけて残らなくてもだめです。大手術をしなければだめです。」

課長が新しくならはまりましたので、この際十分検討してやらねいと、薬を買って間に合わせたり、あちこち掘って間に合わせたりではとても今後ろていけないと思ふ。こういうクト位、小さなことをろておってもいけないので、我々も十分協力する意思も持っておりますので、十分御検討願いたいことを要望します。

・学校教育課長(猿藤一郎君)照明の問題でございすが、研究したかどうかということでお答えいたしたいと思います。

東京電力に照明相談室がありまして、そこでいろいろ教

室照明の実態調査が研究されておいてそこに参り  
ましてその職員といろいろそういう問題について話合つた  
結果、塗料の場合においては、最高は水性塗料を使った  
場合に二〇%アップか照度は上らない。ただ、水性塗料  
を使った場合に光が全般的に反射する事で、明かるくなった  
ような気がするということ。観賞的にはいいけれども、ルグス  
は二〇%一か上らないということ。塗料より蛍光灯をつ  
けた方が照度が上る。塗料より蛍光灯の方が効果が  
大である。そういう結論が出ておりますので、お答えいた  
します。

一六番(五十嵐昇君) 三月の定例市会におきまして私は広域  
行政の問題、それから長期財政計画の問題、第三に教  
育の問題について御質問申し上げたわけでございますが、  
今回ここに館山小学校の便所新設工事云々という工事が出

ておりますけれども、過日も市長さんから幼稚園の増築問題が全員協議会のおりに出ておるわけでございまして、館山幼稚園の園地の増加という趣意なことは、前もって予知されることであつたのではなからうか。それがどうして当初予算に組まないで、市長さんのおっしゃるような何か土地開発公社による変体的な財政処置に、また幼稚園の増築を、たい云々というお話があつたわけでございまして、館山小学校、或いは館山幼稚園の教室の需給状況というものは一体どうなつておるのだ。

私は三月の定例市会のおりにも、館山小学校において二教室か三教室か、或いは特別教室が普通教室に使用されていかんかというふうなことで御質問申し上げたわけでございまして、現実がそうであつたのではなからうかと思つてありますが、そういう特別教室がつぶさつて



普通教室に代用されておるということは大きく教育効果の減殺ということになるかと思ひますので、そういった点につきまゝて教育委員会においては、長期の教室の増改築といったような問題についてどういふ計画があるのか、~~こ~~ういった点につきまゝて~~も~~御説明をいただきたいと思います、  
のであります。

なお幼稚園の教室を過日、御説明によりますと門の近くに二教室を作りたい。こういうお話もあつたのでござい  
ますけれども、そうなりますと校庭が当然つぶれて参り  
まゝで収容している園児に対する校庭の広さの問題、  
こちらもち當然起こつて参りは、ないか、従つて園児一人に  
対する標準は幾らになつておるのかという点につきまゝ  
ても御説明をいただきたいと思います。

いづれにいたしましても教育の問題は一日もゆるがせに

できない問題でありまして、ことに館山市は教育の  
 内容は安房郡におきましても非常に進んでおる  
 けれども、校舎等々施設・設備におきましてもむしろ  
 郡部に遅れてはいはないかということが考えらるるが、こ  
 います。が、そういう点につきましても、長期計画があ  
 るのかないのか、至急樹立する必要がある。

議長(吉田勇治郎君) 一六番議員さん、発言中ですが、  
 あまり広範にわたりますので、議題外になりますので、要  
 点的な御質問を願いたいと思います。

一六番(五十嵐昇君) それでは幼稚園の問題とそれから館  
 山小学校の教室の需給状況、関連いたしまして、そ  
 れをお聞きしたいと思っております。なお、そういった  
 面で長期計画を樹立する必要がある、こう考えます  
 ので、その点も一つ。

議長（吉田勇治郎君）暫時休憩いたします。

午前十時五十八分

休憩

午前十時十八分

再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

教育長（押本禧逸君）館山小学校の教室の問題等につきまゝてお答え申し上げます。

館山小学校は今年学級数は三ふえたわけでございまして普通教室が二十九学級、特殊学級が一学級で三十学級ということになります。又都省の規定でこゝろ規模の学校については特別教室というものは理科音楽家庭美術ですか、こういうふうな教室がもう一つ必

要でございますが、現在では理科、音楽、家庭、それから  
視聴覚というのを一つ加えてあるわけでございまして、美術  
等もそこであるということになりますと、規定の程度は  
充足しておる状態でございます。ただ幼稚園の方  
に、数年前から二教室を貸している、こういう状況でござ  
いまして、現段階では、館山小学校は一応文部省で  
示された普通教室はもちろん特別教室も持っているわ  
けでございます。

一六番（五十嵐昇君）教室の需給状況につきまして、  
今の御説明でしたといいますけれども、ここに盛ら  
しておりますところの便所の新設ですか、どの程度  
の規模でどこに作るのか、それにつきまして、御説明願  
いいたします。

建築課長（池田春雄君）便所は講堂と保健室との間の場

所を測量し、まして、そこに入るだけを作る予定ですが、  
大体二坪位になるかもしれません。こゝ予算関係で  
教育委員会から話があり、まして、たように三十万というわけで  
あります。

。六番(五十嵐昇君)便所につきましては、衛生面におきましても  
保健の面におきましても、当然、そういった施設の新設に  
つきましては、当初予算で組んで、かるべき性質のもので  
は、なかったか。こうも存するのでござい、ますけれども、各学  
校におきますところの施設、設備の増設等につきまして  
は、やはり、年度初めにおきまして、各学校等と連絡を取  
り、まして、早急に作するべきでは、なかったか。こういふ、う  
に考えるわけであります。

なお、それに関連いたしまして、館山小学校の校舎二教室  
を幼稚園に貸与して、おるといふことで、幼稚園が二教室、今

回市長さんをお願いしてあそこに校舎を増築をーたいといふふうなことも出ておりますけれども、そういったことも当然、これは年度初めにおいて当初予算に組まざるべき性質のもうではなかったか。こんなふうに考えるのでございます。何か教育委員会におきましてそういった施設設備を増築等につきまして長期計画がないのではなかいか。その場限りではないか。こういうふうにも考えるのでございまして、そういった点につきましては、自後、要望といたしまして十二分に緊密な連絡のもとに学校等が整備されるべき性質のもうである。こんなふうに考えるのでございます。あと、点につきましては、一応問題が少く、なおりますので、後日にゆずることについて、以上で質問を終ります。

三番(嶋田石蔵君)補正予算全般について原案に異議

はございませんが、今石井議員、五十嵐議員に関連して教育費について一二伺いたいと思います。

教育費の補正予算については、これは施設設備に関するものであるが、予算の面より現象面からみると突如として予算化されたように見えるんですが、これは突如に出たものか、前々からあったものか、この点をお伺いいたします。

・教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君) 今度の予算の関係は、前から考えられてあったものでございますが、予算の関係とか、それから調査の関係、そういう関係で延びてあったものが、今回お願いして実施するということになったわけでございます。

・三番(嶋田石蔵君) それではもう一つ続いて伺いますが、今回予算化されたについて、その地域或は学校から新年度予算が成立した以後に委員会に要請があつて予算化されたもの

のか。委員会が前々からこれはやらなくてはいけないという  
ことで委員会が自主的に予算化されたものか。この点に  
ついて伺いたいと思います。

。教育長（押本禧逸君）今課長が言いましたように前々から考  
えておりました問題とともに今回そういう問題が起  
きて要望等もありましたという両方から御提案申し上  
げたわけでございます。

。三番（嶋田石蔵君）教育委員会が受け持つておる内容  
は非常に広範であるから、こういう問題はたくさんあろ  
うかと思いますが、ただ、この地域或いは学校とか人間的  
関係の交渉によつて或いは政治性を用いて、そういう  
ことが予算化されたというふうなことも往々あり得ると  
思うんですが、この点については教育委員会が広い視野に立  
つて公平なる処置を是非お願いしたいと思うわけござい



ましてこういう点については各学校その他社会教育の問題についても目々目々を見ないで、そういうことが薄いために目々目々を見ないで過ごさるということも考えらるうでこの点は強く要望したいわけでございます。

なおそれからもう一つはこういうことが当然五十嵐議員からも出たように当初予算に組まざるべきではあるが、こういういろいろ問題が市長部局まで教育委員会からパイプがすなおに通じていないのではないかといううな気もするわけでございます。

こういう点について一つ伺います。

・教育長（押本禧逸君）パイプを通じていつも市長さん、財政、  
こういうところとお願いを相談をしながらやっていると思ひ  
ますけれどもなかなかうちの方で要望もたくさんあるわけ  
でございます。もうた見方になる部面も或いはあるか

とも思うわけでございますが、以上です。

三番(嶋田石蔵君)当初予算を編成するに当りまして  
 予算の規模があり、各割当があるので出た予算が  
 全部通るわけでもないが、その中途においていろいろ  
 取捨選択さるゝのは当然だと思いますけれども、突如として  
 出たようなこういう予算の内容というものは、何ら  
 かり形において、なおに当初予算を組む際に市長部局  
 に通しておくべきではなかったかということも強く感ずるわ  
 けでございます。教育施設、設備等については特にそう  
 いう点を要望して質疑を打ち切ります。

二番(中村省吾君)一点だけお尋ねいたいたいと思ひます  
 が、総務費の広域行政についてお伺ひたいと思ひます。  
 この問題は従来から館山市の今後がいかにあるかと  
 いうことに関連をまゝして非常に大きな関心事でござい

まして市長さんも何が右前は忘れましたが安房郡市を  
一丸とした広域行政云々の会長もしておられると聞いてあり  
ますが、それから聞いてまして今回助役さんが就任に当りま  
して、この広域行政を専念していただくのだ。こういう市長  
さんの考えも聞かしております。

今回三千方の補正をしていくということでごございますけれども  
この広域行政について今後どのような方針でどういう点に重  
点を置いてこの広域行政に取り組むかということについて、  
新助役さんに本格的な方針と言わなくてもお困りだろう  
と思いますけれども、カー個人的にもこういう点に力点  
を置いてこのような方向づけをもつて推進したいという方  
策を述べていただきたいと思うわけです。

お答えにお困りになるかとも考えられますけれども、楽な気  
持でまだ就任早々でございまして、いろいろ会議にも出て

おられないわけでございます。確たることは申せないことは、私は十分承知しておりますが、広域行政に取り組む姿勢の一端でもお聞かせ願いたいと思います。

助役（畠山伝君）お答えします。この広域化によりまする町村合併と申しますか。このつきまゝでは、市長から助役が中心になつて、これを推進せよというような言葉がございまして、そこで私も関係課長ともども何か、そのため諸部会やようなものでも作りまして、ともども推進していきたい。かように考えるわけでございます。

市長は大体人口規模十万程度が適正であらうというふうなことでございまして、今後その目標のもとに、県の地方課と十分連絡を持ちながら、その目標に対して進んでいきたい。かように考えるわけでございます。そこで現在県の考え方といつて、ありますところは、やはり

関係町村でその合併の機運が醸成されるところについては積極的に対応する。てこ入れするということなやり方できておりますので今後ともこういう調査研究を進める過程におきましてハード作り等をもって県の積極的な応援と申しますか、協力をお願いしてやっていきたい。このように考えるわけでございます。よろしくお願いいたします。

。九番（三幣勇君）三番議員が関係ですが、一ページ、教育費について第一にこの点について今まで市当局、財政課に予算の請求をしたことがあるかどうか。それから小学校費の中の十五節、船形小の土盛り工事請負費として先日説明では七万円ということですが、三月の予算において船形小ほか一カ所百八十九万という学校建設費が出ておりますが、どうしてその中に含まれてなかったか。そういう点の御説明を願いたいと思います。

教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）この予算の關係、当初予算に出たかどうかという關係でございすが、一応總体的な中でこういう關係のものを出したのでございすが、予算査定の段階であとに回わすということ、こういうことになったわけでございすが、

船形小学校の土盛り工事ですが、これは確かに当初予算百八十九万を見たのでございすが、最初う考え方としましては、あのままでできるということで一応予算をお願いしたわけでございすが、實際設計をやり見ますと、あそこは土盛りないと将来壊うためによくないということ、埋め立ての關係をお願いした次第でございします。

九番（三教中勇君）先ほどから三番議員さん或いは一六番議員さん、その他議員さんから、こういう問題が出て

おりますが、教育委員会は学校管理が大きな仕事の  
一つだと思ひます。そういう点についてちよとずきなような  
面が見受けられますが、学校管理についてどういふような  
人事と申しますか、そういったようなことでどういふ形にな  
っておりますか、御説明願ひたいと思ひます。

・教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君） 学校管理の關係  
は庶務課でやっております。庶務課長、それから課長補  
佐、それからあと課員が三名、そのうち一名が学護師  
と一まゝて各学校を回わつて、一まゝて修理箇所、そうい  
う面も修理に當つております。以上でございます。

・九番（三幣勇君） 一名の方で各学校を回わつておるといふ  
ことですが、一名のためにこゝういふ補正予算、突如として  
出た補正予算ではないかといふやうなことが起きておるん  
ですが、その点、

教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）この一名は各学校の修理に専念しておりますので、この設計或いは場所等、そういう関係のものは一応課長、課長補佐、段階で建築課の意見も聞きながらやっておるわけでございます。私たちの見込が違ひということでございます。

九番（三幣勇君）学校教育というものは、地方行政の中でもっとも重要な位置を占めるものだと思いますが、そういつたことで、学校管理について今後とも十分教育委員会として注意して、このような補正予算が出ないようなものときちんとした予算の立て方をしていただきたいと思っております。

一四番（遠山ヨネ子君）一ッページ都市計画費、街路事業費、ことでお聞きたいと思います。

二百萬の減額になっております。土木費の場合には二百萬位たいした額ではないかもしれませんが、三、四



ことを一ぱらゐっているんですかということ。ゐっているところたら私は道路なんかまゐりて地え民がうしろに、変更があつたりすると、地えの人なんか問題が起こらないかということ。

それから、減額は街路事業費ですけれども、もし地えが実施していた。そういうときには計画があらうはいやり方だと思ひますが、その二つをお聞きしたいと思ひます。

土木課長（飯田治男君）先日、御説明にも申し上げましたとおり、二百方り減額というのは、北条那右線当初予算では五百方というところでお願いいたしたわけでございしますが、四十三年、六月五日に果費の補助金、内示がございまして、事業費が三百方ということ、果から内示がございまして、それで二百方を同じ都市計画事業で城山公園が国庫補助の事業になりまして、そちらの方の財源に、たわけてございします。これは別に地えの負担金というものは全然ございせん

参考のために申し上げますと、四十三年度の事業量も一応  
三百万、今年は少くとも延長を延ばせばということで一応  
五百万果の方に要望しておいたわけですが、果の方も三百万  
という内示がきたような次第でございます。

一四番(遠山ヨネ子君) そうすると当初予算の内示は毎年ど  
位ですか、もういっぺん

土木課長(飯田治男君) 当初予算の内示というと、

一四番(遠山ヨネ子君) 今果から内示があつて、それから減額せざ  
るを得なくなつたとおつてやつた。

土木課長(飯田治男君) 要望は一応五百万、四十三年度に四十三  
年度の要望をするわけですよ。

私の方で五百万要望し、また、向こうで査定で三百万という  
内示がきたわけですよ。

一四番(遠山ヨネ子君) ですから五百万の要望は毎年前例で

必ずしもいふものではないですか。毎年そういうふうにかわるんですか。五百万というのは何か積算があつたと思ひますが、

土木課長（飯田治男君）「少くとも県が補助金を余分にもらいたいという事で五百万の要望を出したわけです。」

二五番（田村源治郎君）「結婚相談費と公園費のことでお聞きしたいと思ひます。」

結婚相談費の予算が補正予算に組まれたが、結婚相談は所長がきめるのか。そうしてこの一年間に何組を大体目標にしているか。こゝだけのものでは経費は足りるのか。それ以上経費がかかるのか。

国・県より支出金が三万月、一般財源から八十七万九千月と出されておる。形式のみに終る額ではないか。はっきり市当局からお願ひしたい。

次に公園費の整備事業請負費、くじく園造成費、鳥

類購入費。これについては四百四十五万、これだけで請負させて  
事業費に加算）は正しいか。これだけで必ずしもやるのか。そ  
の点、確たる答弁を願います。

秘書課長（小倉澄男君）第一点、結婚相談費、御質問にお  
答へ申し上げたいと思います。

提案説明のときにも申し上げましたとおり、先般、三月  
定例会におきまして報酬のみを御審議いただきまして、  
ので、あまり早急だったんで、ここに補正予算をお願ひいた  
次第でございます。その後早速結婚相談業務を開始  
したわけでございます。なお、所長並びに相談員は市長  
の任命でございまして、市長も常々申しておりますが、せ  
つかく相談所を作ったのであるから、今お話しするようなお  
ごなり、結婚相談ではいけない。

よく市民に浸透した相談所を作ろうではないかということだ

大体相談員を各地区に一人当り十三名、相談員を各地区別に決定いたしまして、そうしてこの結婚相談所は、実質四月からスタートいたしまして、そうしてまず結婚相談所ができたということをお願いしたいということですが、まず第一の観点でありまして、相談所長 高橋先生でございまして、所長にあらゆる会合をとらえて各所に出向きましてパンフレット等印刷、配りいたしております。

なお相談員の方々も現在までに二度会議を開きまして、それぞれ相談員の方にも、相談の方法等をよく御説明申し上げまして、御協力を要請しておる次第でございまして、現実に取り扱った件数を御参考に申し上げますと、四月に一件、五月に一件、六月に七件、これは取り扱ったというよりも書類をいただきましたにきまりましたのが十三件あります。

それをお持ち帰りになりまして提出されてはじめて登

録されてその人たちが対象になるわけでございますが、現  
実に申し込んできた方は二件しかございません。近くこのう  
ちが申し込まれると信じております。

それから他市も例でございますが、大体結婚の相談がまとま  
る率というのは非常にケッパうございまして大体一割程度  
です。から年間を通すとまゝ二十組から三十組、この程度で  
方々で結婚がまとまるといふことで、これ以上は期待できない  
といふことは結婚相談にくる方は非常に羊令的に四十過ぎ  
の方が多いか、又対に若い層が多いとか、そういう羊令的  
な差が非常にあるのでむづかしい仕事であるといふことで  
ございます。よそでは申し込んできた者同士を紹介してや  
っておるといふケースですが、館山市におきましては十三名  
の方々を相談員に委嘱してありますので、こういう人が申し  
込んできたけれども、そういう相手になる人がいないだろうかと

いうことで相談員の方にお集まりをいただきまして申し  
込んでない方でも候補者があつたりやつていただきたいとい  
うことで、あくまでも秘密事項でございしますので、秘密を厳  
守してやつておる次第でございします。

一応この予算には四月スタート早々でございしますので、十組位  
も目標にして結核婦の相談所を運営していきたい。こういう  
関係で記念品代を十組一万円計上した次第でございします。  
土木課長(飯田治男君)公園費の工事請負費三百八十万について  
でございしますが、そのうち三百四十五万は今回、国の補助金に  
より、ます事業の方の工事請負費でございまして、くじやく園  
施設工事の請負費としましては、三十五万円、くじやく園  
を開設するに当り、ましてくじやく園ではなくて、市長の方針  
にもございまして、たうに南方の鳥類も一緒に小屋を作つて  
飼育したり、いいのではないかと、いうこともございしたため、そ

鳥類の方の禽舎を作る工事請負費でございまして備品購入はそれから禽舎に入ります鳥類の購入費でございましてくじく園の開設に当りましては工事は完了でございまして、

今後の整備についてはくじく園の運営審議会の意見を聞きまして実施していきたいと思っております。

秘書課長(小倉澄男君) 落しましてたが三万円、補助金でございまして、これは三月定例会でも御説明したんです、農村結婚相談所を作れということ、それから毎年三万円の補助金が参る。自己財源を八十七万九千円ということ、ございまして、

二五番(田村源治郎君) 結婚相談員ですが、どこに相談しているのか、申し込みだけあっておる。名前ばかりの相談員、ううな気がする。それから何組今まであったか。四月に一、五月四、有七



結婚していったものの発表はできるわけでしょう。どこそこの部落で結婚した位ははっきりいってもらいたい。その点どうです。秘書課長(小倉澄男君)お答え申し上げます。四月に一つ、五月に四、六月に七つと申し上げましたのは、結婚相談所に実は、結婚の相手を見つけないかということに頼みにきた人です。それに対して富崎の方であるならば富崎に相談員の方がいっぱいいます。富崎でこういう人が頼みにきたけれども相手になる人はいないかということに相談をお願いするわけでございます。そうして現在のところまだ一組も結婚にゴールインした人はございません。先ほど二十組とか申し上げましたが、それはよその市で二三百人の人が申し込んできてそのうち二十組四十人位一年間を通過してということでございます。

二五番(田村源治郎君)了解いたしました。

二番(石井輝久君)歳入でございませう。

歳入の七ページ第十六款繰

り入れ金第一目千葉県漁業振興株式会社出資金繰り入れ  
金、五十一万円でございます。

過去におきまして昭和三十一年度でございますが、出資金、百五十  
万円を市から千葉県漁業振興株式会社に、資入しておるように  
承っております。それを两三回にわたりまして、分割で二かが出  
資金が市に繰り入れになって、いるやに承っております。従いま  
して、この出資金は五十一万円をもって、最後と承っております  
が、そのように解釈いたしますけれども、出資金、百五十万円に  
対して繰り入れ金、百五十万円に当たるのは、いかなる理由で  
ございませうか。

財政課長(長谷川広治君)ただいま御指摘の数字でございま  
すが、一百万円に対する額は、何と申しますか、会社に残余  
金、配当額ではないかと考えておりますが、会社から

通知金では五十一万というふうになっております。その程度でよろしいでしょうか。

二番（石井輝久君）一万円の増額があるということですが、百五十万の投資したことによりまして一万円の利益金を生んだ。しかも十三年間かかっております。十二年間ですか。三十一年間に百五十万の投資したが十二年かかって四十三年度に一万円の利益金を生んだ。このように理解してよろしいか。

財政課長（長谷川広治君）そのように受け取ってもらえばよろしいと思います。

二番（石井輝久君）昭和三十一年に出資した投資の目的が郡内にあったか。私ども漁業関係に承ておらないのでございますけれども、出資金総額百五十万円に対して繰り入れ金総額百五十万円を決して市が損害をこうもっていないことはよくわかるんでございます。一万円の利益

金を十二年間に生じたということは数字によつて示さ  
ておりますから、その点どうこうというわけではございま  
せんが、もし利益金を生む目的によつて出資したと  
するならば、十二年間で一万円の利益金はいくらに少  
ないかと思ひますが、主管課長さんのこの点  
に関する明解なる御答弁をいただきたいと思ひます。  
議長（吉田勇治郎君）午前の会議はこゝにて休憩いたします。  
午後は一時開会といたします。

午後零時一分 休憩

午後一時七分 再開

議長（吉田勇治郎君）午後、出席議員数 二十三名  
休憩前に引き続き会議を開きます。

二番議員の質疑に対する答弁を求めます。

財政課長(長谷川広治君)答弁に入ります。前に私う記憶違ひで答弁をいたしましてたことを御訂正いたいたしたいと思います。

出資金につまましては四十一年度で四十八万、四十二年度で五十一万、四十三年度、今回が三回目で五十一万円、合計で百五十万でございます。御迷惑をおかけいたしまして。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)石井議員への御質問に對しまして申し上げたいと思ひます。

あう当時、昭和三十一年頃だったと存じますが、はつきりとしたことは私承知しておりませんが、大体私う知てる範圍につまましてお答えを申し上げたいと思ひます。

あう当時、果のあつせんと申しましようか。各水産市町村、或いは関係の漁業協同組合等が実施いたしまして、ここに盛られておりますような漁業振興のために会社

を設立したわけでございます。

ベネズエラでございますが、合弁会社によりまして、この会社によりまして漁業振興の一環として、仕事をもちて参ったわけでございます。

たまたまこの事業が失敗したため、継続ができなかつたわけでございますが、一応御破算になったという結果に相なったわけでございます。

その結果、果におきましても、関係の出資の市町村等に御迷惑をかけては申しわけないということで、出資金だけは果の方で配いたため、三カ年間にわたり、まゝの償還と申しまゝうが、繰り入れを実施して参つたという事情がもうございます。

大体、そのように私聞いておるわけでございますが、けれども大へん申しわけございませんが、細かい点につきまゝては、

今存じませんので、それで御了承願います。

二番(石井輝久君)財政課長より計数的な御説明は了承いた  
—ました。従いまして五十一万円が繰り入れ金の総額は両  
三回にわたります。これを最後として総計百五十万円出  
資に対して返ってきた金額百五十万。しかも十二年間に  
わたって資金がわっていたということであつたように理解いた  
—ます。

昭和三十一年に千葉県漁業振興株式会社が設立せられ  
ました当時、目的と言いま—うか。ただいま漁業振  
興という目的が農林水産課長から御説明がございま  
—したので承知いたしますが、果たして漁業振興に百五  
十万出資したことによつて漁業振興になつたかどうか。この点  
を一点お伺いいたします。

それから出資でございますから、投資目的に添わなければ

ばならぬと思いますが、目的の一つに漁業振興があり、かつ幾らか利益金というものが目的の中に含まれていなかったかどうか。それをさらに一点お伺いしたいと思います。それと同時に関連いたしまして農林水産関係の外部へ出資してきたようなケースもございましてどうか。たとえて申しますならば農林漁業関係で千葉県信用基金協会や出資金、或いは千葉県農村興業株式会社に対する出資金等につきまして若干の御説明をいただきたいと思います。

農林水産課長（伊藤孝太郎君）お答え申し上げます。

この会社や設立の目的が先ほど申し上げましたほかに雇用の促進というものが含まれておったところでございます。

いわゆるあの当時や仕事につきましては、あくまでも県におきまして各市町村に対して出資の要請がござい



まして関係水産市町村が出資金を出し、ましてこの仕事に  
参画したというふうな結果になっているわけですが、自  
後のいろいろ細かい点につきましては、大へん申しわけござい  
ませんですけれども、直接その当時携へておりませんでした  
果の方で大体この仕事は中止になつて、もちろん、やらせていな  
かつたわけですが、いますので、細かい点につきましては、御了承  
願いたいと思います。

引き続きまして、関連いたします、農業関係につきまして  
出資のようなものがあるかということですが、今お話  
にもございまして、信用基金協会とそれから、果の  
農業開発公社、市で現在出資しておりますのは、この二  
つでございます。

○二番（石井輝久君）わかりました。第一点、漁業振興目的で、漁  
業者の雇用促進という目的がおそらく当時におきま

してはある程度満たされたものと私は承知しているわけ  
です。カーナガラとはいうものの、この会社は、ベネズエラ  
まで参りまゐる、あえなくも倒産しておるといふ事実があ  
るわけでございます。これは館山市の方針が悪いので  
はなれて、果の方針が間違っていたか、見通しが甘かった  
かどうかであります。従つてここで論議をしてもいたゝ方が  
ございせんが、軽々に果の指導といえどもうつかりと、のら  
ないことが、地方自治体としても大切ではないか。こういうふう  
に考えるわけでございますが、これは個人的な見解でござ  
いますので、見解の表明にとどめようと思ひます。

次に千葉県信用基金協会の出資に対する総額と返還  
金、仕組はどうなっておりますか。

農業開発公社、これはごく簡単に御教授をたまはる音で  
味で御説明願ひたいと思ひます。

千葉県農村興業株式会社に対する出資金は過去においてなかったか。あつたとすればその処理はどうなつておるか。

これは議題外と御指摘をたまわるゝではないかという憂いもございしますが、関連してお答えを願ひたいと思ひます。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)お答え申し上げます。ただいまお話にありまして千葉県農業振興株式会社でございしますが、関係につきましては、私存してありません。

私存してありませんが、関係してあります。方たちに一念のために問い合わせたいたひと考へておりますが、今々ところ承知しております。

それから信用基金協会と農業開発公社の出資金の総額でございしますが、これはただちに取り寄せます。御了承願ひます。

二番(石井輝久君)千葉県漁業振興株式会社の出資金に對し

ます、関連でございしますが、千葉県漁業振興株式会社も  
非常にはなばなしくスタートしたことを私ども記憶しておる  
のでございしますが、それが県の指導にもかかわらず、あえなくも  
倒産してしまつたという事実、それから、これに関連いたしまして  
千葉県農村興業株式会社、これは初代社長が県の農林  
部長をやりまして、戸川謹吾でございします。故人でござい  
ますが、これは一生懸命、それでも遂に丸紅飯田に身  
売りをしなければいけなくなつた。こういう当局の指導の  
誤まりが一再ならず、具体的事実として教えられるのであ  
ります。従いまして私は県の指導といえども、館山市  
に持つてくる場合には軽々にのらうずによく慎重検討を  
お願いしたい。このように考えるわけでございします。

もう一点、千葉県農村興業株式会社に対する出資金は  
なかつたかどうか。あつたとするならば、その処理はどうなつて

いるか。お聞かせ願いたいと思います。参考のために。

農林水産課長(伊藤幸太郎君) 出資をいたしたことはないと思存します。

二番(石井輝久君) 了承いたしました。それから千葉県漁業振興株式会社の百五十万に対する出資もその後経過を十分御承知になつていないという答弁でございまして、どうも設立当初の出資、これは議会でも速記録を調べておりましたけれども、何らかの御説明があつたと思ひます。十二年前ですが、その出資後の監督といひますか。その金がどういうふうに使はれてどのような効果を生んでゐるかといったような市当局の指導、或いは監督と申しますか。その不足しておつたのではないかと、こゝうに考えます。従いまして今後金額の多少にかかわらず、十分行方を見定めて、運営如何を十分確かめて遺憾なき

を期していただきたい。このように要望いたしまして  
質問を打ち切ります。

○六番(五十嵐昇君) 先ほど一五番議員の石井議員から  
一尿処理の七十四万の購入代金について御質問があつ  
たわけでございますが、これに関連いたしまして夏季の  
街路におけるところの清掃費の問題でございますが、  
大体夏季の衛生清掃面の費用がどの位、どういうふう  
に使用されているか等につきまゝ簡単に御説明いたしま  
たい。このように思います。

衛生施設課長(大嶋重義君) 夏季の清掃費につきまゝ  
の御説明を申し上げます。

清掃関係におきまゝはゴミの収集とこの処理、もう  
一つは一尿の汲み取りとこの処理、二つに分けて行なつて  
いるわけでございます。

ゴミの収集でございますが、これは大体現在ところ平均二  
ニトン前後が集まっておりますが、夏になりますと三トトン  
から四トトン前後になるわけでございます。これは今まで  
処理場におきまして焼却処分をしておるわけでございます  
ますが、あそここの処理場の能力が大体三トトンの能力で  
ございまして、その日に処理できなかったものは、これを河川  
敷に埋め立てに処分をしておたわけでございますが、これ  
はやはり夏になりますと、蠅とか野犬等の公害のもとに  
なりますので、できる限り集めたゴミは、その日うち  
に焼却場の炉におきまして焼却処分をする。こういう  
方針で進めております。

収集計画も従来としまして、従来一週間うち三回  
月水金、火木土という日割があつたのでござい  
ます。火木土は午前中の収集に大体なつておた  
いでござい



すが、こゝ収集のアンバランスをなくして、月木土の  
関係も午後行なう。収集のアンバランスをなくして焼却  
処分もできるだけ、即日完了する。それが五時なりに  
焼却でき得なかった場合には、残業しても、これを処理す  
るという方針を立てて、実はけうでも九時過ぎまで処理  
場の作業をやらせるわけですが、さすがにそういったこと、今ま  
でとかく言わねたが、もうたけいども、こゝの衛生面を考え  
まゝフルに収集、或いは処理の面におきまゝ努力をして  
いきたいという考えでおります。

それから尿の関係でござりますが、こゝに現在二業者に  
汲み取りをお願いしているわけですが、特に夏場人口  
もふえますので、あそこ、処理能力が四五リットル約二百五十  
石が制限でござりますが、先月は平均して五三キロリッ  
トル程度でござりますが、ただいま補正に計上して、た促進



利で大体処理能力が四〇%程度はこゝによつて引き上げる  
ことができるといひますと大体六三から五位はできるという見  
込みでございまして、この案によつて夏場ふえた分につきま  
しても、相当程度処理できるということと、なお、それでも処  
理できなかった場合には一部神戸の平砂浦に近いところで  
ございしますが、昨年もやつたぐでございしますが被害がない  
箇所へ万一の場合に投棄して急場をしのいでいきたい  
ということと、この点につきましては、業者とも打ち合わせ有  
でございします。以上概略でございしますが、そういう方  
針のもとに夏の間、清掃業務を行なつていきたいという  
計画でございします。

一六番(五十嵐昇君)ゴミの収集によるところの衛生面の処置  
或いは一尿等の処置につきましては、万全の策を講じておら  
れるかのように存じておりますが、現在市民の声といたし

まして夏季におけるところの清掃で下水の土を区民が奉仕で取り上げておるけれどもあゝを取りにくることが非常に遅いおる。そこが一つと、もう一つは市で車を借り上げてまして収集をしておるのだが、その際に自動車だけよこしてどうも区民の清掃奉仕、ことに婦人がそこに出ておるのうへ重たい土を車に上げるのにどうにもならぬ。こういった問題で男の清掃人なりを車に乗せて収集をしてもらいたい。

こういう市民の声と同時にあとで下水溝について消毒が非常に不完全金である。薬品等がどうやうに使用されていのかわかりませんけれども薬品の投入状況といったようなものにつきましても所見を伺いたいと存するでございませう。

市民がことに婦人層があつたところの処置についてはほとんど困つておる。車だけ借り上げて人夫をつけてよこさない女で炭俵にいつぱいになった土を上げるといふことになりまうと

とてもでないけれども困るということで、そういった上り収集等に  
ついてどう程度が予算が組まれ、どうように使用されてゐるか。  
概略で結構でございまして、御説明願いたいと思います。  
衛生施設課長（大嶋重義君）お答え申し上げます。最初に側  
溝のこととございしますが、私どもの方では、ただいまのところ  
清掃車は七台、それからトラップが一台あるわけとござい  
ますが、先ほどの質問の中、に車を借り上げてというお話  
がございまして、たけれども、昨年までそう、た一般の民間  
車の借り上げを行ないましたけれども、いろいろと予算  
の関係で本年度は一切民間車の借り上げをいたして  
おりませんで、現在市が自動車のみで行なっております。  
この自動車には運転手と作業員二名が定員で動  
いてゐるわけとございまして、この溝につきましても、各町  
内会長とも夏前に打ち合わせをいたしまして、各地

えり町内会で御協力をいただきまして、事前に打ち合  
 わせた上で実施してもらいたい。というのは先ほど申し上げ  
 げましたように一方にゴミの収集計画があり、二、三時  
 間がきまつておりますので、その余暇或いは土曜日や午  
 後、或いは日曜日等を利用して、或いは早朝を利用して  
 いう計画がございますので、溝どろの収集が多少手間どつ  
 ちるといふ面があるかもしれませんが、そういう実情でござい  
 ます。それから第二点、うそう場合に各町内会で労力奉仕して溝  
 どろを上げています。それに付て非常に困るということでも  
 ございまして、申上げましたように私の方では現在、ところ、清掃  
 職員が手いっぱいなので、どうしても地元の町内会の方々  
 多少は手を借りないと大量に出た場合に、これに応じきれない  
 状況にありまして、労力の関係をお願いしている  
 わけでございします。

それから、実際、私の方で困りますことは、側溝関係でござい  
ますけれども、ある場所によりますと、側溝がコンクリート  
でできてないようなところもあったり、それから、多分、地形の  
関係で、流れの悪いところか、そういう関係もあるわけでござ  
います。が、やっとなあとは、必ず消毒するというところで、消  
毒関係につきましては、保健衛生課の担当でございます。  
ので、連絡を取って消毒をお願いしているわけでございます。  
・一六番(五十嵐昇君) ただいま、御説明によりますと、自動車  
は、借り上げておられない。こういうお話でございしますが、  
私、昨日、下町の区長さんのお話で、一緒に立ち会ったのでござ  
います。が、市の車でなかった。借り上げのようなダンプの小  
型なんでございます。が、市役所の名はなかった。で、私は  
これを見て、借り上げ車だと断定したわけでございます。  
間違えをおぼえともあられ、それから、作業員二名を乗せて

おるといふお話でございますけれども、このダンブには人夫が  
乗せておらないのかという話を話したら一人も乗せていません  
自分だけです。こういうことでなおさら今御説明と食  
い違つて参るわけでございますが、運転手にこれは無理だ  
よ。ことに女が奉仕者だけにやらせるのは無理ではないか。  
従つてだかか乗せてくるようにお願いしたいといつて運転  
手の方をお願いしたつてございます。これも調べていた  
だければわかると思います。ここでも御答弁は必要あり  
ませんけれども、そういったことで作業員二名乗せておると  
いうことでございますけれども末端に於ては励行されて  
ないことに匹う主婦の奉仕者に対する労働過重という  
ことで困りきつておるのだ。それを匹なり何なりによらせて  
おいて實際の面ではお茶飲み話ですけれども何う  
あれもないのだ。お茶菓子位、匹費でやつておるのだ。それは

結構だと思つたのでございしますが、どういふことは別といたしまして、  
清掃人夫を乗せてそれも女性でなくて男性の人夫を乗  
せていただきたいといふこととそれからあつた薬品の散布  
ありままでは海に流れ込んで館山市の海水浴場が汚染と  
いふことも考えられますので薬品の投入につきましては、完  
全にやめていただきたいといふことを要望いたしまして、私  
の質問を終わります。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございせんか——なしと  
認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございま  
せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて本案

は原案通り可決さしました。

日程第七議案第五十九号を議題といたします。

御質疑求めます。

御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案も討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さしました。

おはかりいたします。

本日の会議に議案第二十号、人權擁護委員の推薦に关してが提出されました。

これを本日の日程に追加し議題といたしたいと思います。



これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって日程に追加し、議題とすることに決まりました。

議案第六十号を議題といたします。

議案を配付いたさします。

(議案配付)

議長(吉田勇治郎君) 議案の配付漏れはございませんか。配付漏れなしと認めます。

議案第六十号

(書記朗読)

議案第六十号 人権擁護委員候補者の推薦について

(市長登壇)

市長(本間謙君) 議案第六十号につきまして申し上げます。

人権擁護委員が一名死亡としまして欠員でございますから  
新たに館山市北条一四一三番地小幡道太郎君を御  
推薦申し上げたいと思います。

小幡君は大軒町第二町内会長並びに大軒町の町内会  
連合副会長防犯協力会交通安全等、役を現在やろ  
おるまわめて適任者と思ひまして御推薦を申し上げる  
次第でございますからよろしく御承認願ひたいと思ひます。  
議長(吉田勇治郎君)本案に対して御質疑を求めます。  
御質疑ございませんか。——なしと認めます。  
おはかりいたします。

人権擁護委員に小幡道太郎氏を選任することに同意  
するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって人権擁護委員

に小幡道太郎君を選任することに決まりました。  
暫時休憩いたします。

午後一時四十一分 休憩

午後一時五十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
この際おはかりいたします。

本議会より申し合わせ協定に従い常任委員会より委員の  
改選を行ないたいと思ひますが、これを本日の日程に追加  
しただちに議題といたしたいと思います。

次に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって日程は

追加されました。

おはかりいたします。

常任委員会委員の改選を行ないますことに御異議  
ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって決まりました。  
重ねておはかりいたします。

ただいまの改選決定により現在各常任委員会委員  
は全員それぞれ辞職し全委員会ともに欠員となったこと  
といたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって決定いた  
します。

なお重ねておはかりいたします。

ただいま決定さしましたとおり、各常任委員会とも欠員と  
なりまして、本日はただちにこれが選任を行ないたいと思  
います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本日た  
だちに選任することに決定いたしました。  
暫時休憩いたします。

午後一時五十三分 休憩

午後二時三十二分 再開

議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。  
これより常任委員会委員を本市委員会条例第四条の規  
定により選任いたします。

局長より報告いたします。

事務局長（高梨清一君）この席から御報告申し上げます。

総務常任委員会委員 鈴木市蔵さん 五十嵐昇さん

島野茂樹郎さん 関武夫さん 吉田勇治郎さん 石井

輝久さん 山口康さん 経済常任委員会委員 安沢

徳順さん 望月照正さん 三幣勇さん 小柴孝さん

藤田益治さん 飯田義男さん 田中祿郎さん 文教

民生常任委員会委員 秋山六三郎さん 西村真次さん

磯辺博さん 中村省吾さん 嶋田石蔵さん 遠山ヨネ子

さん 山田教宇さん 伊賀多朗さん 建設常任委員

会委員 江田徳太郎さん 田村源治郎さん 黒川正さん

白熊盛太郎さん 安西益男さん 石井正さん 菊井

敏博さん 小沢恵太郎さん 以上でございます。

議長（吉田勇治郎君）以上とあり各常任委員会へ委員に選

任いたします。これに御異議ございませんか。

(「異議なしと呼ぶ者あり」)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって決定いたしました。

この際同条例第五条の規定による各委員会において互選されました正副委員長を報告いたします。

総務常任委員会委員長 鈴木市蔵君、副委員長 石井輝久君、経済常任委員会委員長 小柴孝君、副委員長 三教中勇君、文教民生常任委員会委員長 秋山六三郎君、副委員長 伊賀多朗君、建設常任委員会委員長 菊井敏博君、副委員長 白熊盛太郎君、御参考に申し上げます。議会運営協議会委員長 小矢恵太郎君、副委員長 田村源治郎君、以上のように決定いたしました。

おはかりいたします。

本定例会に付議された案件はすべて議了された。  
よつて会議規則第七條の規定により本日をもちて第二回  
市議会定例会を開会いたしますことに御異議ござい  
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よつて本定例会  
はこゝにて閉会することに決定いたしました。  
ごろうさまでございました。

午後 二時三十七分 閉会

本日の会議に付した事件

一、議事日程に加えて

常任委員会委員の改選について



出席議員

吉田 勇治郎

石井 禪久

鳩田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯辺 博

白熊 盛太郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小柴 孝

山田 教宇

遠山 三不子

石井 正

五十嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野 茂樹郎

中村 省吾

関 武夫

小澤 恵太郎

飯田 義男

田中 祿郎

田村 源治郎

秋山 六三郎

安沢徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口康

欠席議員なし

出席説明者

一 第一日目に同じ

出席事務局取員

一 第一日目に同じ

昭和四十三年六月十九日

右会議ウ次第を録一ここに署名す

館山市議会議長

吉田 勇名氏

同 署名議員

小沢 恵五郎

同

西村 真次

